

日本建築の研究 (講演)

文科二部三年 田中、小曾戸、平井、江見

一

私共は題に示してありますやうに日本建築について話して見やうと存じます。

元來藝術を分類して二種類とする事が出来ません。

其一つは空間的のもので他の一つは時間的のもので御座います、時間的のものを更に別つて建築、彫刻、繪畫の三と致しますし、時間的のものを更らに別つて音楽、劇、詩の三といたします。

其中此には其の一種類である建築についてのみ申上げやうと存じます。

先初めに建築の性質を考へて見ますと二つの目的を具へて居ります。一は藝術的目的で二は實用的目的で御座います、實用的と云ひますのは身体の保護、實際生活のために營む性質を云ふので、藝術的は之れを美術的に裝飾する性質を云ふので御座います。

此の藝術的目的と實用的目的との關係は何うであるかと申しますと建築と申しますものは元來が實用上

の目的に適して居なければなりません。

若しそうでないと致しますと此の點よりして建築としての價値は減じて來るので御座います、つまり實際の目的に適して居る上に充分藝術的性質を發揮する事が必要で御座います、斯うして美術的價値が發展すればするほど建築は大なる藝術となるので御座います。

然し實用の目的の上に立つたものも單純なものもありますし複雑なものもあります、例へば神を祭つて置くこと云ふ目的なら簡單な建築でもよろしいので御座いますが、禮拜、儀式等をも必要とするやうになつてまゐりますと種々の目的から藝術的のものが必要とするやうになつて複雑となつてまゐります、そうなりますと建築全体の配置の上にも統一を保つ工夫を必要とするのでたゞ實用の目的より申しますと其目的に適してゐる多くの個々のものの集りでも可いのでありますけれども美術としては一体の統一がなくてはなりません、例へば宮殿に住む君主は一人でありますが實際生活のために又は慰安のために複雑なる部屋割が出来ます、斯うなりますと全体の統一

を見る事が出来ないかと存じます、其時には美術的印象と云ふものは僅かに其部分か、若しくは其建築のみの外見點にのみ留まるので御座います、がこの實際の目的を失はないで複雑なる美術目的を現さうとするには之れを散らすことで御座います、例へば寢殿造りの寢殿と對の屋の如く、他の一つは繪畫的に不規則の間に面白味を添へる事で御座います例へば禪寺の庭園の木立の間に建物を配置するやうな事で御座います、此う云ふやうに實用目的と美術目的とが一致いたしますれば私共は何等かの印象を與へるので御座います、かの伽藍造りは莊嚴雄大の感を與へますし宇治嵯峨あたりの別莊如きは瀟洒たる感を與へます。

こんな風に調和を實現し其結果としてあ 印象即莊嚴だとか、輕快だとか、雄大だとか、陰鬱だとか云ふやうな表彰を與へらるゝので御座いますが更らに其の因りし生じます點を考へますれば三つの原因を有して居ります、一は材料、二は構造、三は之れにより生ずる印象であつて建築には其材料が木、石、煉瓦、鐵と色々ありまして其材料の異なるによりまし

て構造も異つてまゐります、又構造の異なるに従ひまして建築の様式裝飾等の美術的目的の上にも影響せられます、で今其建築に付いて材料が何うであるか、其材料によつて構造せられた形は何んな様式になつて居るか、又それによつて如何なる印象を受けるかと云ふ、此の材料、構造、印象と云ふ三つの點から日本建築の大体を観察して見たいと思ひます。

二

日本建築を大別しますと、

一は純日本建築

二は東洋の影響を受けた建築

三は西歐の影響を受けた建築

とする事が出来るので御座います、其中一と二に通じて其材料の重なる物は木材で御座いますして三は主として煉瓦石等で御座います、従つて構造の上になつても印象の上に於ても全然違が御座います、よつて私はこの三者の中一と二とをひつくるめて述べてみたいと存じます、尤もこの中に含まるる建築の種類は雜多でありますが是を建築の種類によつてわけてみますれば神社佛閣宮殿の三とする事が出来ません。

(一) 純日本建築を知る事の出来るものは神社で御座います。是には、神明造、大社造、大鳥造、春日造、八幡造、日吉造、權現造、等の種類が御座います。其原始的形式は純粹の日本固有の様式で御座います。が次第に外國傳來の佛寺建築などの影響を受けて種々の様式を生じました。今日各地方に散在して居ります神社は總てこの中の何れかに屬して居りますが、只今御調査中の明治神宮は是等の様式の精華を集めて更に莊嚴崇高なものとなすといふ事で御座います。更に是等の様式の外に偉觀を添へる事となるので御座います。

(二) 次に東洋各地の影響を受けた建築を知る事の出来るものは佛閣で御座います。是には、七堂伽藍造、天臺眞言宗の山寺、禪宗の寺院、徳川時代の各様式などが御座います。七堂伽藍は多く平地に建てられまして法隆寺などはこの建築で御座います。平安時代に成りましては、天臺眞言宗が盛んに信仰され其教義によつて寺は多く山に建てられる様になりました。それで平地にある伽藍造が山の高低によつて散在せられた様な形になりました。さうなる山林の間

なりました。平安時代に及びましては更に進み善美をつくした皇居八省院、豊樂殿などが出来る様になりました。この時代の末には里大裏の建築がおこる様になりました。鎌倉時代になりましては最も發達した邸宅として書院造が現れこれによつて玄關床書院などができ其裝飾として各時代により武家の風尚を發揮した彫刻繪畫を賞用する様になりました。二條城はこの建築で御座います。實に當代の傑作と稱するに足るので御座います。これに附屬いたしましては幽靜簡雅な茶室などが出来る様になりました。又桃山時代には鐵砲が盛んに使はれましたので城堡が出来る様になりました。即ち城を幾重かの渠で圍み城の隅の方に數層の櫓を築き又一方には偉觀を添ふるためと遠く四方を見渡すためとに數層の天主閣を設けました。大阪城聚樂第は即ち是では御座います。徳川時代になりまして諸侯は江戸に屋敷を構へる様になりました。江戸は誠に莊大な都となりました。しかし是も四代將軍後度々火災に遇ひまして多くは焼かれたので御座います。其後それを再興する事ができませず明治の御代に移つたので御座いますが、この御代になり

から五重三重の塔がみえたり山の峽から殿堂がみえたりして風景と建築との調和が生じ好個の畫題となる様になりました。鎌倉足利時代には禪宗が盛んに行はれまして白木造に金銀をもつてかざつた極くあつさりとした寺院が出来ました。室町時代になりましてからは禪刹と邸宅と融和した物が出来る様になりました。例へば鹿苑寺の金閣、慈昭寺の銀閣等は是でございまして奈良平安時代の華麗な建築に比ぶれば瀟洒で御座います。様式の上においても裝飾の上にも別の趣がある様に思はれます。それから徳川時代になりましてはかの日光の廟、増上寺などができました。この時代の建築はごく細い點に美を盡してゐるので御座います。明治時代に及びましては、我邦最大規模といはれてゐる東本願寺が明治二十八年に落成いたしました。是はおそらく最後の傑作ではないかといはれて居ります。

次に宮殿作に就きましては原始的の住宅といはしましては神明造に見る様な形式であつたので御座います。が是も次第に唐の制にならいます。内裏大極殿などができ青瓦で屋根を葺き柱や扉を丹く塗る様に

ましてからは盛んに洋式や和洋折衷の建築が昔の江戸の建築に混る様になりました。ので今日では城堡屋敷も其中に曉の星の様にとりのこされ昔盛んであつた様を物語つて居ります。

以上の如きものが我邦に散在してゐる建築の様式で御座います。これを概觀いたしますのに漸々國民生活の進歩發達と共に劇場集會場官廳學校など大建築は西洋建築にかはり、住宅にも西洋建築との調和若しくは西洋式によらんするものが生じてきました。少なくとも大建築に日本式又は東洋固有の様式を用ふる事はだんだん少なくなつた様に思はれるので御座います。日本建築は木材を用ふるために餘りに大きい構造は出来ないで御座います。が其材料が木材であるために木材其物の美觀及その彩色、彫刻、組方等に色々の美點を發達せしめたので御座います。是等は永く國民美術の寶庫として永續する事だらうと存じます。又住宅としても細い點において室内室外ともに繊麗な様式を發達せしめたので御座います。是また國民の様式として永く生きのこるものであらうと存じます。

西洋建築は是等の國民的趣味とが如何に調和するかといふ事は今後注意すべき問題だらうと存じます。

(三) 洋風建築は其の材料構造及印象の上から在來の日本建築と違ふ點の多いのは申すまでもありませんがこゝでは主として東京市内で見える事の出来るローマン式、ゴシック式、ルネサンス式、モダン式との四様式に就いて構造と印象との上から其の特色とすゝ點を調べ度いと思ひますそれには各様式の起源を知てをく必要がありますから先づ最初に西洋建築様式の變遷をとりつゝ申上げたいと存じます。

西洋建築の様式の起原と發達とを考へて見ますと遠い昔に遡らなくてはなりません現在の西洋建築に直接影響して居る最も古いものは希臘建築で其の中には更にドリヤン式、アイオニヤン式、コリンシャン式の三様式がありますが其の特色は何れも哀く柱に現はれて居ります此等は私達が少し注意して往來を歩きますといくらでも見當るのですドリヤン式と云ふのは最も簡短で瀟洒した方のある形で柱の下部が稍太くなつて居りますアイオニヤン式はドリヤン

式の優しくなつたもので上部には簡單な彫刻が施されてあるのを見受ますコリンシャン式なるも前の二様式よりも遙かに裝飾が多くなつて俗的になつた趣があります。

希臘建築に次いで起つたのはローマン式で此の様式は紀元前後から始つてローマを中心に東方へ行つてはビザンチン式に變化し西方ではフランス、スペイン、ライン、の各に至るまでも廣まつて中世の大部分は此の様式が行はれて居りてしたそれで四世紀から五世紀にかけて歐洲中部を蹂躪した野蠻な慥悍なゲルマニー人もローマ人と接觸する様になつてからはローマン式を見倣つたのでした然し彼等は元來が野蠻な民族でしたから荒ぼく模倣をしましたので尖塔形の建築が彼等の間に起りました此が次第に發達して十二三世紀の頃になりますとゴシック式となつて現はれたのです、此の様式は今のフランスを中心におランダ、ドイツ、スペインの方へ廣まり稍々遅れては英國にも入りました。

十五世紀になりますと文藝復興の精神は建築界にも現はれましてギリシャやローマのクラシカルな様式

に歸ろうとしたルネサンス式が起りました此は最初イタリアに現はれたのでしたが地中海沿岸から次第にバルト海沿岸地方に進み終には米國に至るまで殆んど全歐米諸國は皆此の様式に支配される様になつたのです。

此の様に各國に行はれたルネサンスは長い年代を経過するにつれ各異つた國民性の影響を受けまして次第に國民的のものに變化致しました例へば英國式のルネサンスとかドイツ式のルネサンス或は米國式のルネサンスと云ふ様に多少異つた特色を帯びて來ました此等を總稱して即モダン式と申しまして最近に流行して居るヌーボー式とか或はセセツション式と云ふのも此の中から變化した様式なのです大体こんな風に發達して來た西洋建築は明治維新以來東西兩洋の文物が直接に相觸れる事となりましてからは盛な勢を以て我國に入つて來ましたが只今東京市内の西洋建築に例をとります前に述べた四の様式が最も多いかと思はれます。

ローマン式は余り多くはないが日本橋の萬町で村井銀行の角を入つた處にある東京貯藏銀行が是に近い

此の様式に通じた點は圓天井で屋根の形も圓みを帯びて居る窓は上部が半圓穹をした小さな單獨窓が多い柱は割合に太くて堅牢に見へるが建築全体が重苦しく光線が不十分の爲陰鬱な感じが致します貯藏銀行にしても到底二十世紀の銀行とは見へないで倉庫か何かの様に思はれました。

ゴシック式の特色を明に見る事の出来る建築は法文科大學と其れに附屬して居る圖書館とです、此の様式の特色とする點は建築物全体が非常に尖つて居る事で従つて屋根の勾配も急であります又多くの尖塔が立つて居るのも著るしい特色の一つです、窓や入口の形は全体に比例し上部は尖つて居りますが其大さはローマン式に比べると遙かに大きくて時には破風の直ぐ下にまで届く事もあります其中は更に二つ或は三の連續窓になつて居ります窓の上部と破風の間がすいて居ります時には石の三葉形か四葉形五葉形等の簡單な模様が嵌め込むのであるのを見受けます。法文科大學には目立つて大きな尖塔はありませんが屋根の勾配が急になつて居る事や中央に大きな破風があつて左右にはシンメトリーに二つづゝの小さな破

風がありますが何れにも小さな蘆の形をした尖塔が建物に添つて地上から立つて居る事や尖つた窓の上には三葉形の模様がある事等は皆此様式の立派な特色を現はして居るものであります工科大学も大体此様式ですが窓や入口の形は別の様式になつて居りません、今度私共が見て歩きました中では建築の良否は別として最も善くゴシックの特色が現はれて居ると思ひましたのは數寄屋橋の上から見た銀坐教會でした此の様な建築の前に立つて鋭く突き上つた塔や急勾配の屋根を見ますと如何にも天に向つてアスバイヤして居る様な何者かを渴仰して居る様な意味に思はれます又彼の窓の小さくて保守的な冷靜なローマン式に比べますと此の様式は明くて快活でゲルマン民族が古來の傳說的束縛から脱して充分に自己を現はし自由に活動せんとしたゲルマン的精神が現はれて居る様に感ぜられます、此の様にゴシックは個人的な自由活動の表現として見る事が出来ます、此の様式が主として學校とか圖書館或は寺院等に多く用ひられますのもかうした意味から來たのではなからうかと思はれるのです。

ルネサンスと申しますのは最も其の例の多い様式で本校の東煉瓦校舎を見ても大体の特色は、窺はれるのです第一の特色は建築全体が平たくなつた事で窓の形はローマン式の如くアーチ形をして居りますが大きくて中は連續窓の場合が多いのです一体に曲線的の點が多い様に思はれます。此の様式は多くギリシャ建築のドリヤン式アイオニヤン式コリンシヤン式等の柱を勿論内部にも用ひますが特に目立つのは左右や或は上部の窓の間に半は裝飾的の意味で用ひてあります爲に第一にはクラシカルな感が致します稍々崇高な感じを與へるゴシックに比べますと通俗的で曲線の多い爲でせうか柔みのある親しみ易い建築であります、更に例を挙げますと日本橋の近くでは日本銀行や三越の新舊兩建築等は皆立派なものです、尤も新しい方の三越はルネサンスの特色が明です、純粹なるルネサンスではなくて次に述べようとする最近式の加味されたものでありまして新舊兩建築の前に立ちますと直ぐ氣の付く點であります日比谷の近くでは中央停車場や愛國生命保險會社帝國劇場等には此様式の精神が比較

的明に現はれて居ります。

モダン式は前に述べた通りルネサンスの近世的になつたもので善い例は日比谷の方から數寄屋橋を渡つた左側にある秀英舎です此の様式はルネサンスに似ては居りますが大体に曲線的であつたものが次第に直線的に變化して來たものゝ様に思はれますルネサンスに多く見るごたごたした裝飾的な部分が除かれ簡單になりましたが正面に立つて見ますと建物の高さや巾とが柱の大きさや窓の大きさと其の間隔等の比例が善く釣り合つて建築全体に調和して居ります、それ故部分部分を見ますと餘りに美感は起りませんが全体としては統一ある實用的な建築なのであります。

銀座の村井銀行も正面には堂々たるルネサンスの特色が表はれては居りますが大体モダン式に屬するものと云ふ事が出來ます更によい例は芝の赤十字本社ですが此の建築は外から見ると少しも曲線的な部分がなく黒ずんだ煉瓦の間には白色の割合に大きい石か交へてありますので優美とか輕快と云ふ様な感じは起らないごつしりした男性的の表現を持つて居り

ます。

以上四つの様式に分けて各實例を挙げましたが更に精しく觀察致しますと單に一つの様式ではなくて二三の様式が混じて居るものも多いのです例へばニコライにしても尖つた方はゴシックに見えますが大きな方の建築は大体ビザチン式なのです丸善株式會社を見ましたも前面はルネサンスですが後方には別の様式が混して居ります、こんな風で實際には複雑のものが多いのです。

尙一つ加へ度いと思ひます事は在來のペンキ塗や土壁や板壁等の建築から脱しまして尤もペンキ塗にも其の色彩の配合が建築の様式に釣り合つて面白いのもありますが一最近になりましたからは住宅として米國の別荘建築の様式が二三ヶ所に現はれて來た事でありまして其の最も立派な例はニコライの門前にある建築かと思はれますが此の建築には未だ一定した様式はないややであります大体の様子を申しますと屋根は日本式に傾斜して居りまして特色は様式がまことに複雑である事ともう一つは壁によく現はれて居ります一寸見ますと黒ずんだ砂や小石の塊を投

げつけた様で壁全体がざら／＼になつて居りますが其間にはステンドグラスや碧玉が赤玉かと思ふ陶器のはまつて居るのが誠に麗はしく見えます。我國の空氣や光線や四邊の風物とよく調和して居ります。此を引くるめて申しますと明治の初年に出來たものには割合に立派なものが多くて中頃のものは甚だ亂雑でありましたが近來だん／＼日本の國土と趣味とに調和した建築が現はれて來るやうに思はれます。

三

以上分けて述べました所を總括致しますに斯様な發達を致しましたには二つの原因があると思ひます第一は自然的影響第二は精神的影響でありましてこの二つが建築の實際的目的を規定する箇條でありますがこの條件の上に藝術的趣味を發揮する爲には長い時間と勝れた技術とを要するのであります。

先づ自然的影響と申しますのは地勢、地質、氣候の三つに分れます精神的影響は宗教と國體の二つに分れます地勢と申しますのは我國は島國でありますので少しも大陸の興亡に影響せらるゝ事なく今日嚴然

に溫暖で凌ぎやうござぬます爲に烈しい寒暑を防ぐといふやうな備がいりませんから壁も薄くて善うございますし窓も大きくとれるのでございます又雨量の多いといふ事から屋根の形が發達して參りました初めの者はたゞ直線的に傾斜して居りましたが次第にすゝんでなだらかな曲線をえかいて優雅ななんともいへない感じを與へる物をも造り出しました雨が多いと申しましたがそれも一定の時では誠に天氣晴朗といふ風でありますから建築物の保存に不都合だといふ様な事はありません正倉院や法隆寺の建築物は世界最古の木造建築として今猶存して居るのでありますそれから第二の精神的方面について申しますに先第一に宗教と申しますのは我國民は敬神崇祖の念が深うございますそこでこれを祭ります神社の建築が起りました例へば藤原氏が全盛の頃その祖先の爲に春日神社を建て源氏は八幡様を尊祭致しました又只今でも何處へいつても村には鎮守の森がありまして必らず氏神を祭つた御社がござぬますこれも建築の發達に多大の影響を與へましたかと存じます次に佛教が渡來致しましてから厚く人心の歸依を得て

として我大和民族建國當時の様式をうかかう事が出来る理でありますそれから自然に一步／＼進んで參りましたのは此地勢の關係がなかなか深いのであると思ひます次に地質と申しますのは建築はその土地に産出する材料の多き物を用ひますので我國は今でも至る所に深山幽谷があります様にその太古一層繁茂して居りましたそこで至る所材木が豊富でこれを伐り出して建築用の材料としたのであります其結果は構造にも影響致しまして所謂楣式建塊が専ら行はれました楣式と申しますのは柱を建てゝその上に横木を渡す仕方で煉瓦や石を用ひますとアーチ式建築を生ずるのでありますさて斯様に楣式であります所からその裝飾は多く柱の彫刻などになつて參りました日光へ參りますと大層よく發達の跡を知る事が出來ます名高い木理の虎昇降の二龍を彫刻した柱などは誠に人をして感嘆の聲を發せしむるのでありますけれども今日の様に西洋文明が輸入される様になりましてからは材料も煉瓦や石などが用ひられ嘗てなかつたアーチ式の建築も前に申しました様に盛んになつて參りました次に氣候と申しますのは我國は誠

寺院の建築といふ事が起つて參りました或は隋唐の影響をうけ或は宋元の影響をうけ又明朝清朝の影響をうけて様式に於ても裝飾におひても種々の特色を發揮しましたそれ故今日研究上に多くの材料を與へらるゝのであります次に最も深く考へなくてはならぬ事は國體との關係であります我國は上に萬世一系の皇室を戴き下人民も太古から連綿として續いて參りましたそこで外國に見る様な度々新しい君主が出て新しい民族が造りました様な斷片的なものではなく建築そのものも又連綿として次第に進歩發達して參つたのでありますそして外國形式を模倣したとはいへ常に出來榮においてはその本國の物をとり入れて之を日本化して居るのでありますこれ我國民が美術的國民としてほこるべき所であるのであります此他に建築の保護者のあつた事もこの一つに數へられませう即上に立つべき人或は上流の貴族などが人民に先立つて此道に盡された事であります例へば聖徳太子は深く佛法を御信奉なされて寺院の建立を御勉めになりました又聖武天皇は諸國に國分寺や七重の塔の建立をお命じになりました或は武家時代になりま

しても武家の間に禪宗が盛んに行はれて禪寺が多く建られました封建時代になつても諸侯は領土内に城を建きこりてを設けるなど經營して今日も多くその遺蹟を見る理であります。

かういふ條件の上に立つて我國は全然獨特の藝術を生じ所謂日本趣味として世界に類例なき特色を發揮致しました日本建築は實に我美術の寶であつて又日本美術の總合的美術品であります如何なる國の美術と雖も之が追従を許さないのでありますこの建築に現れたる民族の活動力は獨り建築の上のみに止まらず總ての文化に於ても同様の力を發揮してゐる事に無限の興味と勇氣とを感ずるのであります、我國將來の文化はかくの如くにして種々なる特色を總合して更に獨創的能力を發揮し世界文明の精華を吸收する事にあるかと存じます、我々は日本建築を研究しながら今更のやうに此事を感じまして我等の責任の大なる事を思ふのであります。

み弱きを併せて富めるの輩に移り社會の風尚甚しく野卑に流れたり今や弱肉強食の世となれり國民の健康を増進せしめ其の技藝を上達せしむることもとより邦家存立上の一要件たるべけれどこゝろみにこれを日清日露の國難に見るもわか彼の大敵に勝利を得たる所以のものは決して物質的文明の彼に勝れたるに因れるにはあらざりき却つて纔に軍隊の間にのみ殘存せる我が武士道に基づけることは争ふべからざる事實なりき然るをわれらを以て現社會を察すれば只管藝術の發達にのみ心を盡す輩はあれども精神界の事にいたりてはふかく憂ふるに足らずとなすものゝ如しあゝ羅馬はかくの如くにして滅び希臘はまたかくの如くにして衰へたるにあらずや、我邦近年の文明は大抵西洋諸國を宗とす試みにこれらの國々見れば所謂文明國中耶蘇教を以て人道の標準とし國民道德の基礎をこれに置かざるものはなし故に中人以上の家一冊の聖書を藏せざるなきこと恰も維新以前我が中人以上一冊の論語を藏せざるなかりしと一致せりまた毎週集會して神を祈り罪を悔い地方にありては旅舎の客室毎に必ず一部の聖書を備ふるを見る

精神的教育 (評論)

文科一部二年 渡邊 カツ

我が國維新以前中人以上儒に入らざるはなく中人以下佛に趨かざるはなく三千餘萬の民大抵一個の信條を有し殆ど一日も精神の修養を怠らざりしに維新以來經籍影を藏め佛寺頽敗し生乳生水の肉躰に害あることを教ふる母はあれどもいかゞはしき新聞小説の精神を毒することを悔ゆる父はあらざるなり少年の喫烟を禁ずる法律は存すれども一個の人格養成を目的とする覺舎を見るによしなきを如何にせん故に市上に一瓶の敗水を賣るものなく床下に一簣の塵を留むる家なき一方にも新聞に小説に新著に演説に異端邪說横行闊歩してつひに憚るところなき世の有様とはなれりあゝ國民の肉躰は乳母や日傘に保護せられてその精神は猛獸毒蛇の中に棄てられたるか且つや世間の秩序一變してより士農工商必ずしも昔日の種姓を論せず大羊牛馬を一罅中に争はしめ富貴その取るに任せてより人民は總立となり世は全く才能技藝の戰場とはなりしなりかくして人民は人を排して進

甚しきを一週一日の安息日には舟車を止むるありまた白耳義の如きは郵便を廢しても之に従事するものをして精神の修養を怠らざらしめんとし彼の有名なる劍橋大學の如きは紳士の養成を以て自ら標榜せり實にうるはしきことならずやこれによつてこれを觀れば彼列強の精神衛生に注意せること決して肉躰のそれにおとらざることを知るべしかくてこそ國民の精神はいよゝ堅實となり國家はますゝ發展するにあらざるべきか思ふに精神的文明の力は物質的文明の力に歩をゆづらぬこと明白なり否よき精神の支配によらずしては物質的文明の眞價はあらはれざるなり誠に精神は凡てのもの基礎にして凡てのものゝ支配者なればなり然るにわが國現今の状態や如何即ち國民道德はすでに腐敗の極點に達し今や少しく目さめんとしつゝありあゝこの時誰か力よく戸を開いてかゝやける光に浴せしめん者ぞいふまでもなくわれら教育者の力なりこの際教育者は自覺と自任とを以て社會の先覺者はた先導者とならざるべからず思ふにわれらも他日その任にあたるものなればやがては國民教化の一部を掌中ににぎるの時ある